

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 8	公益目的事業 17
主査名	有村俊秀 早稲田大学政治経済学術院教授	
研究テーマ	持続可能な地域経済発展のための社会基盤の研究： 観光産業と社会基盤整備の関係について※	
研究の目的： 本研究では、持続可能な地域経済発展のための社会基盤の在り方について、観光産業との関係に注目して研究を行うことが目的である。適切な社会基盤の整備が来訪する観光客の増加をもたらすのであれば、社会基盤整備は観光産業の発展を通して地域経済に大きく寄与する可能性も考えられる。そこで本研究では社会基盤整備を観光産業との関わりからの観点から分析し評価することを行った。その上で、持続可能な経済発展のための社会基盤の在り方について考察した。本研究では3つのテーマごとに、地域社会における社会基盤の分析を行った。		
研究の経過（4月～3月）： ゲストを招いての研究会を実施した。1つ目のテーマである地域における社会資本整備と観光需要を推定するため、離島統計年鑑から離島別の観光客数や人口、道路距離といったいくつかのデータを収集してデータベースを構築した。構築したデータベースをもとに、観光客数と社会資本整備やその他要因との関係について分析を行った。2つ目のテーマである観光地における無電柱化事業の評価を行うため、分析対象地の選別と無電柱化事業の評価方法についての検討を行った。いくつかの候補の中から、世界遺産である群馬県富岡市の富岡製糸場を分析対象地として決定した。アンケートのプレテスト実施を経て、webによって本調査を実施した。本調査の結果をもとに富岡製糸場での無電柱化事業の評価額を推定した。3つ目のテーマである自然エネルギーと観光産業との関係について考察するため、地熱発電地域で施設見学などのエコツアーを実施するため観光産業へ投資が行われるというシナリオのもとで産業連関分析を行った。		
研究の成果（自己評価含む）： 本研究では日本全国の離島毎のデータから一つのデータベースを構築し分析を実施することができた。分析の結果、離島における道路整備が観光客の増加をもたらす可能性が示唆された。社会基盤整備の一環である富岡製糸場近辺における無電柱化事業について、観光客の視点からの評価を明らかにした。そして無電柱化事業の財源の捻出を観光客からの寄付で実施する可能性について示した。自然エネルギーと観光産業の研究に関して、地熱発電でエコツーリズムを実施し、観光需要が増加すると仮定した場合、地域における社会基盤整備等の経済波及効果が見込まれることが分かった。よって観光産業の推進は地域に十分な経済効果をもたらす可能性を示唆した。		
今後の課題： 離島分析に関してはさらにデータを拡張し、より精密な分析をすることが求められる。観光地における無電柱化事業研究に関しては、地元住民からの無電柱化事業の評価を明らかにし、より望ましい財源政策についても検討していくことが求められる。自然エネルギーと観光産業の研究に関して、今後は地熱発電を導入する際の費用面あるいは環境影響も考慮して分析を行うことが求められる。		